

地域在住高齢者における社会参加とサルコペニアとの関連

佐藤 菜々¹, 牧迫 飛雄馬², 中井 雄貴³, 富岡 一俊⁴, 谷口 善昭⁵, 和田 あゆみ⁶, 木山 良二⁷, 堤本 広大⁸, 窪蘭 琢郎(MD)⁹, 竹中 俊宏(MD)¹⁰, 大石 充(MD)¹¹

^{1, 3, 4, 5, 6} 鹿児島大学大学院保健学研究科 ^{1, 4, 6, 10} 垂水市立医療センター垂水中央病院

^{2, 3, 7} 鹿児島大学医学部保健学科 ⁵ 鹿児島医療技術専門学校 ⁸ 国立長寿医療研究センター

^{9, 11} 鹿児島大学心臓血管・高血圧内科学

Key-Words

JST版活動能力指標／サルコペニア／歩行速度

抄 録

[目 的]

地域在住高齢者における社会参加とサルコペニアとの関連を明らかにすることを目的とした。

[方 法]

地域コホート研究（垂水研究 2018）に参加した 65 歳以上の地域在住高齢者 859 名のうち、脳卒中等の既往歴のない 751 名を分析対象とした。Asian Working Group for Sarcopenia2019 に基づいてサルコペニアの有無、また JST 版活動能力指標の社会参加に関する 4 項目より社会参加の状況を評価した。

[結 果]

サルコペニアを有する者では、社会参加得点が有意に低値であった ($p < 0.001$)。従属変数をサルコペニアの有無、独立変数を社会参加得点としたロジスティック回帰分析の結果、社会参加とサルコペニアに有意な関連を認めた（オッズ比 0.83, 95% 信頼区間 0.71-0.97）（共変量：年齢, 性別, 教育歴, 服薬数, 転倒歴, 運動習慣, うつ傾向, 認知機能）。

[結 論]

地域在住高齢者の社会参加状況はサルコペニアと関連することが示唆された。

はじめに

高齢者の身体機能の低下に影響を及ぼす重要な要素として、加齢に伴う筋肉量が減少した状態（サルコペニア）が知られている。The European Working Group on Sarcopenia in Older Peopleによると、サルコペニアは「骨格筋量と骨格筋力の進行性かつ全身性の減少が特徴である症候群であり、身体機能障害、生活の質低下、死のリスクを伴うもの」と定められている¹⁾。サルコペニアを有する高齢者では転倒リスクが高く²⁾、骨粗鬆症の合併リスクの増大に伴い骨折リスクが高くなる^{3,4)}とされている。高齢期の転倒、骨折は、直接的に日常生活動作（Activities of Daily Living：ADL）に影響を及ぼす⁴⁾だけではなく、転倒恐怖感により社会的活動や余暇活動が制限され、ADL 障害に繋がることが懸念されている^{5,6)}。サルコペニアに伴う筋力低下や身体機能低下は、活力低下、基礎代謝低下、消費エネルギー低下、食欲低下をもたらし、栄養不良状態を促進させ、さらなる筋力低下、身体機能低下を招くというフレイルサイクルが構築される⁷⁾。この悪循環によってフレイルを有した者は、転倒や ADL 障害、死亡リスク⁷⁾、要支援・要介護の発

¹ Nana Sato, ² Hyuma Makizako, ³ Yuki Nakai, ⁴ Kazutoshi Tomioka, ⁵ Yoshiaki Taniguchi, ⁶ Ayumi Wada, ⁷ Ryoji Kiyama, ⁸ Tsutsumimoto Kota, ⁹ Takuro Kubozono, ¹⁰ Toshihiro Takenaka, ¹¹ Mitsuru Ohishi
^{1,3,4,5,6} 〒890-8544 鹿児島県鹿児島市桜ヶ丘 8 丁目 35-1,
^{1,4,6,10} 〒891-2124 鹿児島県垂水市錦江町 1-140,
^{2,3,7} 〒890-8544 鹿児島県鹿児島市桜ヶ丘 8 丁目 35-1,
⁵ 〒891-0133 鹿児島県鹿児島市平川町 5417-1,
⁸ 〒474-8511 愛知県大府市森岡町 7-430,
^{9,11} 〒890-8544 鹿児島県鹿児島市桜ヶ丘 8 丁目 35-1

E-mail :
¹ na2.stch.or@gmail.com,
² makizako@health.nop.kagoshima-u.ac.jp,
³ nakai@health.nop.kagoshima-u.ac.jp, ⁴ reha_tommy@yahoo.co.jp
⁵ p.taniguchi0601@gmail.com, ⁶ ayumi0924n.n@gmail.com
⁷ kiyama@health.nop.kagoshima-u.ac.jp, ⁸ k-tsutsu@ncgg.go.jp
⁹ kubozono@m.kufm.kagoshima-u.ac.jp,
¹⁰ takenaka@tarumizumh.jp, ¹¹ ohishi@m2.kufm.kagoshima-u.ac.jp
 [COI] 本研究に対して、全著者に開示すべき COI 関係にある企業などはございません。